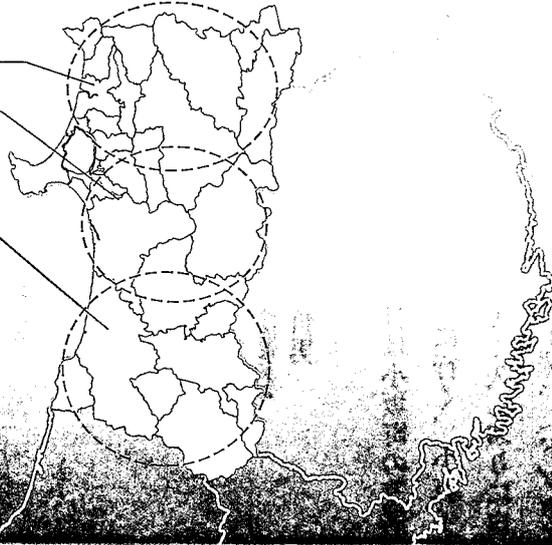


の死体も今はありません。ただ、雑草が一面に生茂、人間の営みそのものが抹消された如く風が吹いています。復興の槌音も静かに打ち消されている悲しい光景が現実です。こんなことでは無念にも亡くなられた方々に申し訳が立つ訳がない。応急復旧に向かったときに車輛に貼った「なせば成る」ステッカーを再びつけて、本格復旧についても必ず参加し地元の方々の笑顔が見たい。社員一同そんな気持ちで一杯です。発災・災禍は決して忘れてはいけません。しかし、それ以上に復興を諦めてはいけないうし、それに携わろうとする気概こそ、残った者にとって一番大切なことだと、私は信じています。



秋田支部

秋田県北地区電友会
千秋クラブ
秋田県南地区電友会



東日本大震災に思う

千秋クラブ
辰 正祥

平成23年3月9日、仙台で電友会地方本部主催の支部長、事務局長会議が予定されており、開始時刻に間に合うよう余裕を持ったダイヤで行こうと前支部長の鎌田様と打合せをし秋田駅へ出向いた所、盛岡、仙台で地震発生のため、予定したこまち号が運休となり、次の電車に乗ったのはよかったです。が、会議開始時刻に間に合わず、大巾な遅刻での参加となりました。今にして思えば、あの日の地震が2日後の3月11日東日本全域を襲った大震災の前触れだったのだと思えてなりません。地震発生後のニュースは、新聞テレビで報道され、正にこの世の生き地獄を見る思いでした。津波の恐ろしさをまざまざと見せつけられ、大自然の破壊力とは何とすさまじいものなのか、人智を結集しても、到底たちうち出来るものでないと絶望感で一杯になったものでした。尊い命を一瞬にして奪われた方々、ご遺族の方々に思いを致す時、どんな言葉をもってしても慰めにはならぬだと思いつつも遺憾ともし難い無力感に苛まれる日々が続きました。犠牲となられた方々に對

し心から心からご冥福をお祈り致しますと共に、被災した皆様には、想像を絶する程の苦境を強いられている事と思います。復興にも時間がかかるでありましょう。でも今ここに生きていく事に感謝し、必ずよくなる、きっと良くなる、ひとつずつ状況は良くなつていくものと信じて、生き貫いていただきたいと切に思う者であります。直接被災しなかった我々秋田地区会員一同にとって出来る事は何かと考えた時、一早く「貧者の一灯」となりましょうが、まとめ上げ関係団体へ届ける事が先決であるとの考えに立ち、地方本部の意向に従がい、支部長が県内3地区の代表者会議を招集しました。速やかに協議も整い、短期間でまとめる事が出来ました。当たり前の事をしただけなのですが携わった者の一人として、NTT-OBで良かったなとしみじみ思いました。会員の中には、電友会のみならず、町内会、各種カルチャークラブ、他団体等の各所で義損金の求めにと複数カ所に浄財された会員も数多くおられたと耳にしました。福島、岩手では「詩吟」を学んでいる方々が沢山います。私もその1人ですが会の方ではお見舞金、救済物資を集め、被災地への届けは元よりですが、本部で毎月発行する「吟道」誌に「常に災害時の備えを!!常に被災者への

支援を!!続けましょうと一貫継続した傍らきかけをしております。この10月再度の募金活動を展開しております。毎月を経過すると風化してしまうとの思いを排除するためにも1人は皆のために、皆は1人のためにの精神をより一層強固に致しております。「災害は忘れた頃にやってくる」との格言を学んだ事がありますが、今は「災害は忘れないうちにやってくるのだ」を実感しております。明日の我が身にどんな災難が起こるか余断を許しません。非常時に備え万全を期するの心構えを持ち続けたいと思います。

東日本大震災をふり返って



秋田県北地区電友会
大川 哲男

平成23年3月11日この日は小坂町の芝居小屋康楽館へ入場券を買いに行く、小坂インターから十和田インターまで久しぶりに自動車道へ乗る、インターから土深い(ドブカイ)の比内地鶏食堂へ、比内地鶏親子どんぶりを食べて我が家に帰りついたのは午後2時30分頃、ゆっくり昼寝でもと思った矢先すごい地震が来る、午後2時46分、宮城県、岩手県で

震度7マグニチュード9.0北秋田地域(秋田県)は震度3、スゴイ揺れを長い時間に感じた。

停電となる、ラジオで放送を聞く、テレビはダメ、止むを得ず車のナビで放映を見る、仙台空港の津波映像、町並みの津波の映像、ミズレが降りつくづく大変な日だった。

これが当日の日記に書かれてある内容です。車のナビでテレビの映像を見ながら近所の人達と驚き大変さを感じ話しあうこと、どの位時が過ぎたやら皆んな自宅へ帰ったのは薄暗い頃、夕食は懐中電灯、ローソクの灯りを頼りに食べる。

田園の向こうの地区では電気の灯りが見えるそのうち点灯するだろうと、我が家の非常用持ち出しを調べたが暗い所では思うように行かず休むことにした。

翌日朝7時45分ヤット電気が通じた。テレビの震災放送を見ながら、非常持ち出し点検をする。毎日必要なくすり、保険証は、水は食べ物等は等々、電池、ローソクは、その間にも余震が来る、現金は、寒さを凌ぐ毛布、数日続く避難の準備はまだありますが大変なものでした。

幸いにして秋田県は大きな災害は見られませんでした、連日テレビで放映される災害

地の皆さんの苦労を考えるに言葉にはならない大変なことと思ひ出されます。後日には町内会の募金、救援物資の拠出ボランティアに参加し1日も早く復旧されることを願っている一人です。

戦時中仙台市の空爆や日本海中部地震の経験があり、特に鷹巣町の大火では全焼を経験しているだけに災害の恐ろしさを感じます。

過日震災後の南三陸を一周して非常な津波の残骸を目にし、防災対策庁舎に手を合わせ亡くなられた沢山の方々のご冥福を祈り、一日も早い復興を祈願してきました。最後になりましたが、震災にあわれた会員の方々、今すぐ迎える冬に向って体調にご留意下され復興復旧にご努力下さる様期待致します。

ご苦労様ですが頑張ってください。

経験を活かし地震に備える



秋田県南地区電友会
最上 敏夫

ちょうどあの時、トイレから出ようとしたその時に東北地方太平洋沖地震が発生しました。メリメリ、ガリガリであったろうか今にも倒壊しそうな音を立てて、あの狭い場所

も身体が取られそうに揺れたのを記憶しています。三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の国内観測史上最大規模の地震でありました。テレビで見た津波の被害映像があまりにも酷く現実のものと思われずいつまでも目に焼き付いて離れなく、記憶に残る大きな出来事でした。

秋田県では大きな被害を起こした地震はそんなにはないのではと思います。私の記憶では昭和58年5月26日の秋田県能代市西方沖で発生した日本海中部地震と平成20年6月14日の岩手・宮城内陸地震で特に日本海中部地震は大きな被害をもたらしました。

この地震が起こるまで、秋田では日本海に津波は来ないと信じ切っていたそうです。日本海中部沖地震での死者は104名でそのうち津波による犠牲者は100名だそうです。その中に遠足で男鹿を訪れていて津波の犠牲になった合川南小学校の児童13名も含まれています。児童と引率教諭達が津波が来るなんて思わず地震後に加茂青砂で昼食をとろうと立ち寄りそこで津波の被害にあったそうです。また各所で地盤が液体状になり被害を大きくした事を記憶しております。

秋田県、特に県南地方は冬の雪は多いのですが自然災害・地震の被害などは少なく内陸

であり津波などは想像もしないのが現実であり、地震に対する知識・心構えも不十分だと思います。東北地方太平洋沖地震が発生した時の行動を反省してみるとあの激しい揺れに驚き直ぐに外に出ようとした事、電気・水道も止まり、ガソリンスタンドに並んだことなど反省点が沢山あります。一方で支援が広がる中で何か出来ることをと思い、社会福祉協議会を通じて被災者に毛布の提供を行いました。これを機会に自分の身は自分で守るをモットーに、あわてず適切な行動をとるため日頃から情報を集め練習し、その時に備えたいと思います。

まず、地震が起きたら①あわてず、まず身の安全を確保する。そのためには、丈夫な机の下など安全な場所に避難する。あわてて外へ飛び出さない。ブロック塀の倒壊に注意する。②日頃からの備えをする。そのためには家具などの転倒防止、備品の落下防止などの手当てをする、など心がけたいと思います。また、通話輻輳時対策として災害用伝言ダイヤルを使うことが出来るように練習し習得したいと思います。

何かにつけ、災害に関心を持ち経験を活かし伝え、防災意識を高めて行きたいと思ひます。